

このコーナーでは、ボランティアなどの公益的な町民活動をしている人や団体を応援し、その「はじめの一歩」のきっかけになるような記事を掲載しています。

今回は“人”にスポットをあてて、ボランティアについておうかがいする「私とボランティア」です。



宇美町ALT(アシスタント・ランゲージ・ティーチャー)

アンドリュー・ブライト先生



ープロフィールー アメリカ・ケンタッキー州出身。32歳。
日本に来て4年目。日本人の奥様と可愛いベビーのパパ。
好きな食べ物は、日本食。なかでもお好み焼き。苦手なのは納豆。

ALT(アシスタント・ランゲージ・ティーチャー)とは・・・
外国語を母国語とする外国語指導助手のことで、子どもたちの英語の発音や国際理解教育の向上のために、授業を補佐する先生です。
宇美町では、ブライト先生が外国語担当教員の助手として全ての小学校・中学校で指導にあたっています。

●宇美町の小学校はいかがですか？



宇美町の子どもたちはとてもフレンドリーで、元気よく挨拶をして近寄ってきてくれます。プールの学習に参加したり、一緒に休み時間に遊んだりするので、いつも子どもたちが周りに集まっています。

大人気ですね！



●アメリカのボランティアについて



アメリカでは、子どもの頃から「誰かを助けることは良いこと」だと、教会でも学校でも教わってきました。人にした良いことはきっと自分にも返ってくると思います。故郷の実家でも家族や兄弟はボランティア精神をもっており、海外からのホームステイの受け入れなどをしていました。そのような影響もあり、大学では「国際理解」を学んできました。

よいご家族ですね。



●ブライト先生はボランティアの経験はありますか？



1998年から軍隊に志願兵(ボランティア)として入隊し、5年間各国へ派遣されました。大学生の時は、ゴミ拾いや家を建てる手伝いのボランティア活動をしました。今は、東北の震災のために募金や衣類を送ったり、地域の清掃活動に参加したりしています。

志願兵というのは、まさにボランティアの語源ですね。



～ブライト先生から～



自分自身が良い先生と巡り合えて成長できたので、私も宇美町の子どもたちの記憶に残って、大きくなってから「ブライト先生お久しぶりです！」と再会できたら嬉しいです。子どもたちというのがとても楽しいので、ずっと宇美町の学校にいられたらいいなと思っています。

ありがとうございました！



編集後記：子どもの頃から、家族ぐるみで、ボランティアの環境が培われている国って、素晴らしいですね。日本にも“歳末助け合い”という習慣が昔からありましたね。宇美町では、赤い羽根募金と東日本大震災の募金を引き続きふみらぼ隣の社会福祉協議会で受け付けておりますので、どうぞ！（K. E）